

高島地域水害・土砂災害に強い地域づくり 協議会 ー第4回協議会ー

説明資料

1. 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会住民WGの取組状況について
 - (1) 朽木野尻地区
 - (2) 永田地区
 - (3) 白谷地区
2. 避難勧告マニュアル改訂を踏まえた「越水」に関する水位設定の見直しについて
 - (1) 避難勧告マニュアル改訂の概要
 - (2) 安曇川
 - (3) 石田川
 - (4) 百瀬川・知内川・鴨川

1. 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会住民WGの取組状況について

(1) 朽木野尻地区（重点地区）

○平成27年度のワーキンググループでの取組み

開催日	会議名	内容
H27. 6. 12	1回WG	出前講座
H27. 10. 2	2回WG	水害履歴調査(立命館大学)
H28. 1. 30	3回WG	災害リスクマップの確認、避難カードの作成
H28. 2. 27	4回WG	水害履歴調査結果・家屋測量結果の報告、危険箇所の確認



避難カードから想定される課題と対応

【リスク】

- ・水害だけでなく土砂災害のリスクもある
- ・浸水深が深い家屋があり垂直避難が困難
- ・ハザードマップの理解を深める
- ・自宅がどんな状況が確認してもらう

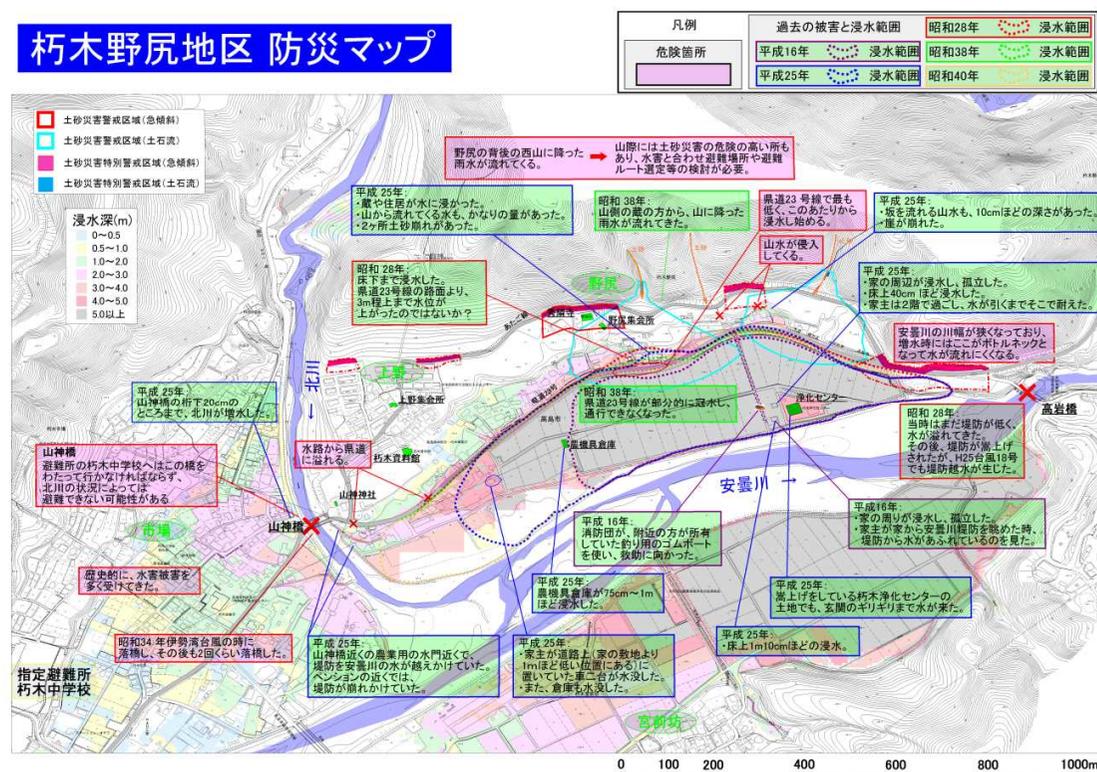
【避難】

- ・屋内避難で安全と考えている人がいる
- ・避難する水位が不明確
- ・洪水の中に河川水位を確かめようとする人がいる
- ・朽木中学校への避難経路に山神橋（北川）があり落橋の危険性あり
- ・集会所は土砂災害警戒区域内にある
- ・移動手段に車を利用してよいか（交通整理、駐車場）
- ・避難勧告の発令情報を知らせる人を確認
- ・防災無線が利用可能か確認
- ・水位等情報をリアルタイムで入手できるシステム紹介
- ・基準水位の理解促進

【要援護者】

- ・支援者、代理支援者はいるか
- ・自主防災組織の役割分担を確認

朽木野尻地区 防災マップ



【今後の予定】

- ・避難計画や浸水警戒区域の検討を実施し、浸水警戒区域指定を目指す。

1. 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会住民WGの取組状況について

(2) 永田地区

○平成27年度のワーキンググループでの取組み

開催日	会議名	内容
H27.11.6	1回WG：上永田	水害に強い地域づくりの概要、地域のリスク等の説明 図上訓練（防災マップ作成）
H27.11.7	2回WG：下永田	
H28.2.14	3回WG：上永田	地域の課題、防災マップの確認、避難計画の検討
H28.2.14	4回WG：下永田	



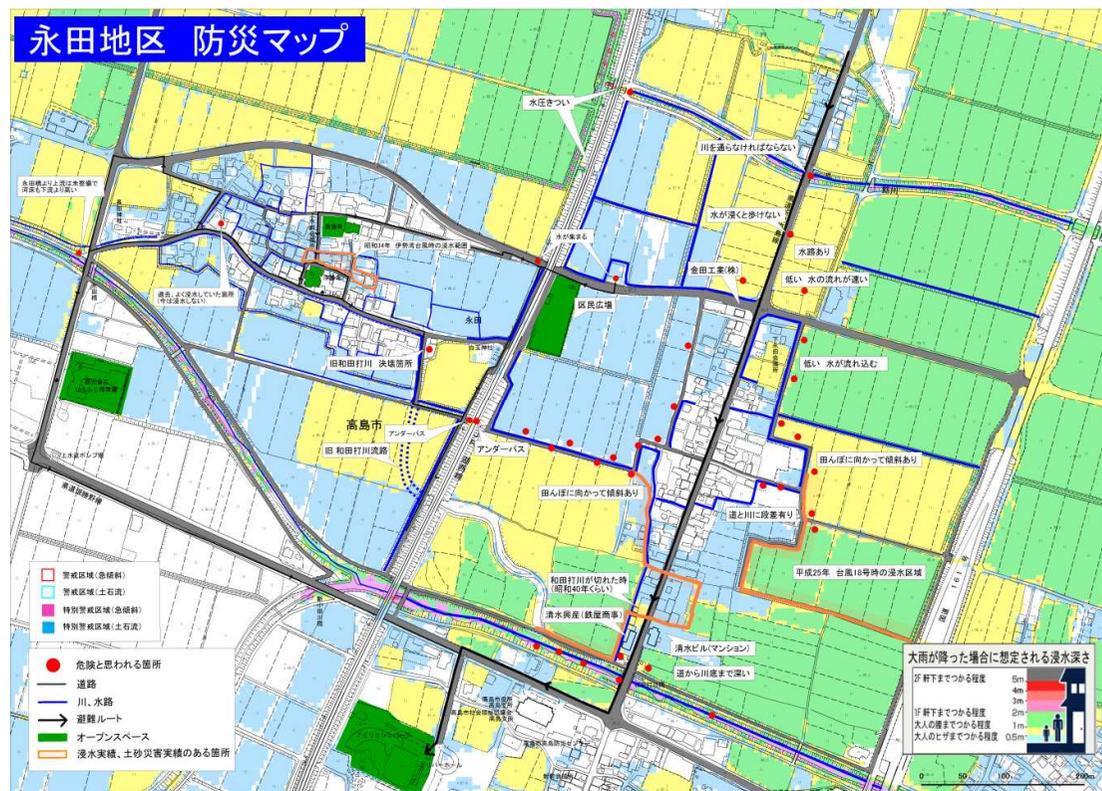
住民意見を踏まえた課題とそなえる対策

- ・橋や浸水する箇所、水の流れる速い危険箇所がある
→・危険な避難ルートを通らない
- ・宅地の想定浸水深が0.5m未満
→・危険な避難行動を避けて2階に避難する判断も必要
・浸水時に自宅にとどまれない場合は早めの避難
- ・鴨川などの中大河川の氾濫が想定される
→・大雨が降り続けた場合の氾濫状況の想定が必要

防災マップの全戸配布を実施

【今後の予定】

- ・ワーキンググループでの取組みを踏まえ、地域住民が主体的に地域防災の課題について取り組む。



1. 水害・土砂災害に強い地域づくり協議会住民WGの取組状況について

(3) 白谷地区

○平成27年度のワーキンググループでの取組み

開催日	会議名	内容
H27. 9. 27	1回WG：出前講座	条例、水害・土砂災害に強い地域づくりの取組み等の説明
H27. 10. 10	2回WG：長寿苑	取組みの目的、地域のリスク等の説明 図上訓練（防災マップ作成）
H27. 11. 1	3回WG：白谷	
H28. 1. 16	4回WG：長寿苑	
H28. 2. 7	5回WG：役員対象	地域の課題、防災マップの確認、避難計画の検討
H28. 2. 21	6回WG：白谷	



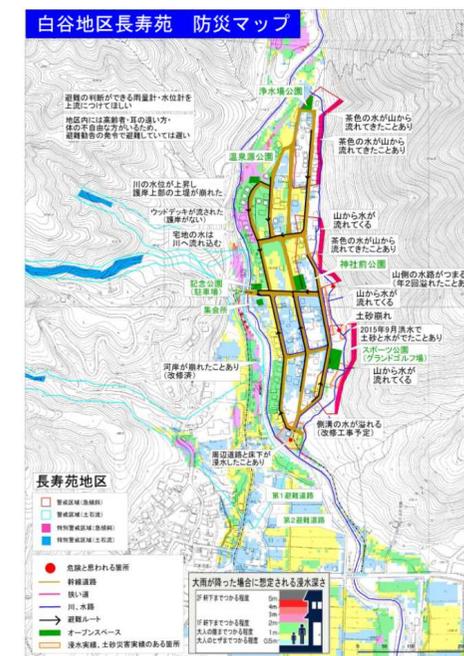
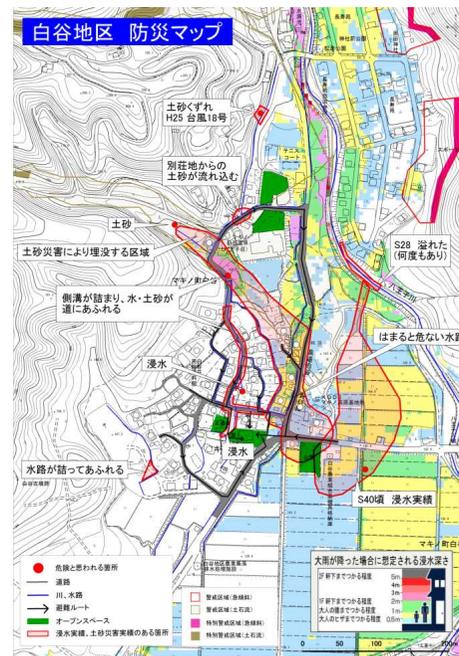
住民意見を踏まえた課題とそなえる対策

【白谷地区白谷】

- ・宅地の想定浸水深が1.0m未満
- 危険な避難行動を避けて2階に避難する判断も必要
- ・浸水時に自宅にとどめられない場合は早めの避難
- ・北側の谷が土石流の警戒区域
- 谷沿いの住人は自宅を離れて避難が必要
- ・要援護者
- 避難体制の構築

【白谷地区長寿苑】

- ・八王子川の溢水で避難困難、河川沿い家屋が流出
- 八王子川に近づかない、自宅を離れて避難する
- ・避難の判断とする簡易量水標を設置
- ・東側の山が崖崩れの警戒区域
- 山側の住人は自宅を離れて避難が必要
- ・浸水深が2.0m以上の区域
- 浸水深が浅い安全な場所または2階に避難
- ・要援護者
- 避難体制の構築
- ・避難の判断ができる雨量計や水位計の設置要望
- 簡易雨量計などを準備する



防災マップの全戸配布を実施

【今後の予定】

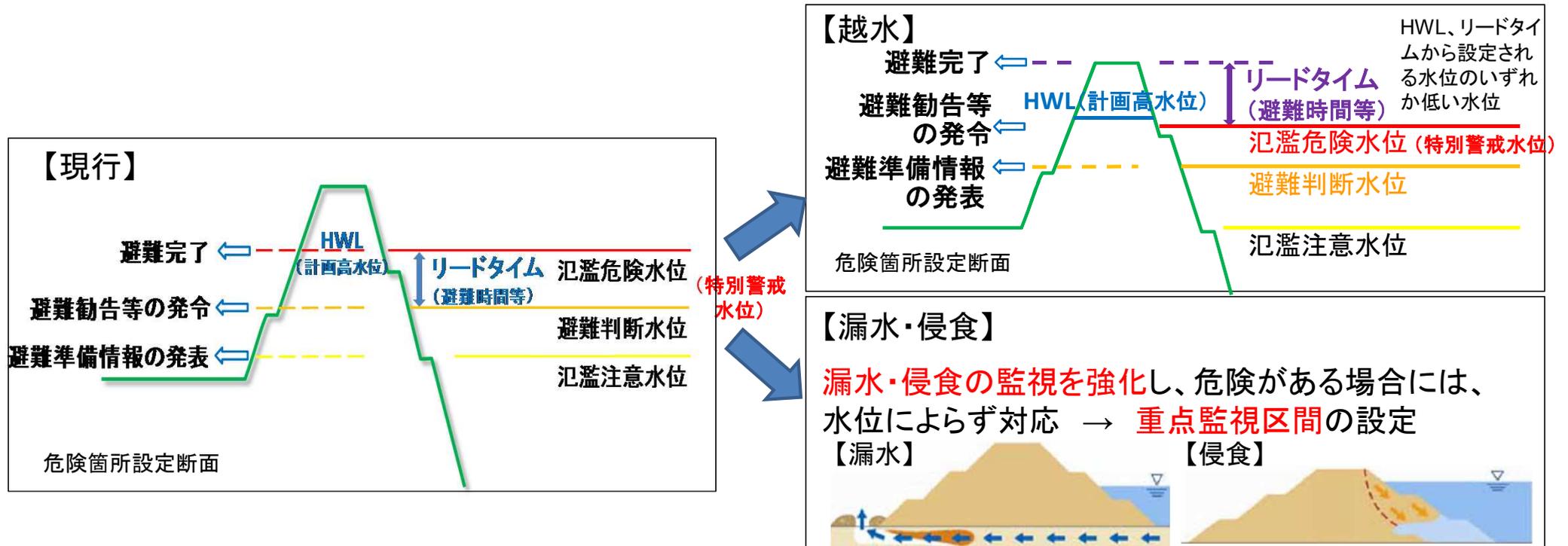
- ・簡易量水標の設置。
- ・ワーキンググループでの取組みを踏まえ、地域住民が主体的に地域防災の課題について取り組む。

2. 避難勧告マニュアル改訂を踏まえた「越水」に関する水位設定の見直しについて

(1) 避難勧告マニュアル改訂の概要

避難勧告マニュアル改訂に伴い、現行マニュアルでは避難判断水位で避難勧告発令、氾濫危険水位で避難完了となっていたものが、改訂マニュアルでは、氾濫危険水位で避難勧告発令、堤防天端で避難完了となった。

これに併せて、現行マニュアルでは避難準備情報の発表が氾濫注意水位となっていたが、改訂マニュアルでは避難判断水位に変更されている。



(2) 現行の基準水位について

【安曇川】 水位周知河川であり、避難勧告マニュアルに従いネック地点等を検討して設定。

【その他河川】 現行の基準水位は、平成25年台風18号の溢水被害の実績水位等から、避難勧告、避難指示発令の参考値として決定したものであり、水防法に基づくものではない。

これらの水位は設定後に出水時のデータを蓄積して妥当性を検証することとしている。

2. 避難勧告マニュアル改訂を踏まえた「越水」に関する水位設定の見直しについて

(2) 安曇川

① 検討方針

◆ 水位上昇速度

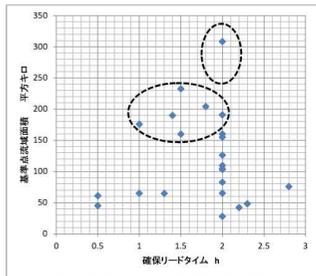
近年の観測データ(直近10年間)を検証し再設定。

◆ リードタイム

(避難に要する時間)
県内主要河川の流域面積とリードタイムの関係図から設定。
○船橋: 1.5時間
○常安橋: 2.0時間

※流域面積

船橋地点=約215km²
常安橋地点=約300km²



流域面積300平方キロの常安橋は最低2時間は必要
流域面積191平方キロの船橋は1.5~2時間程度必要

県内主要河川とリードタイムの関係

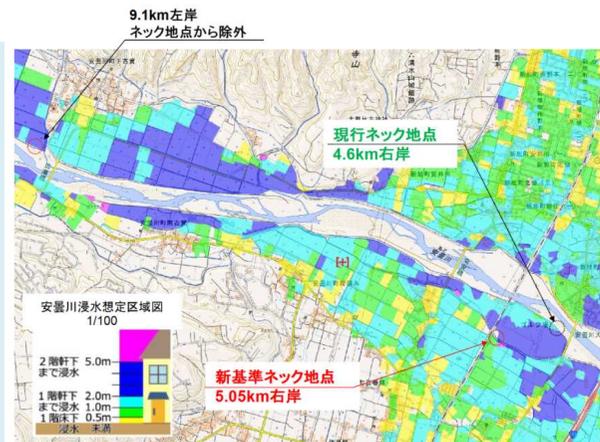
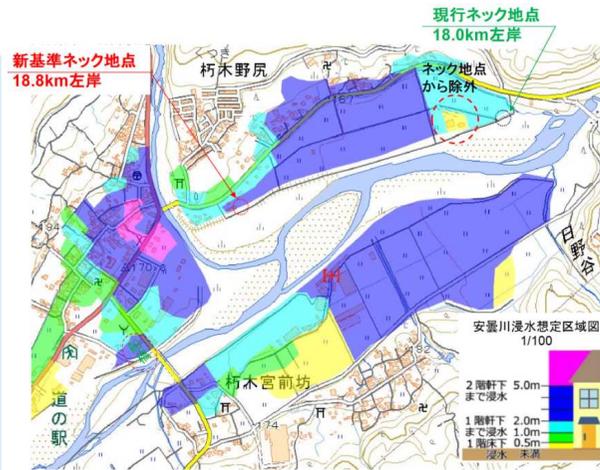
② 検討結果

船橋

ネック地点は、人家への影響が大きい2番目に溢れやすい18.8km左岸を選定。
(堤防から最も溢れやすい箇所は被害が少ないため除外)

常安橋

ネック地点は、浸水被害が大きい2番目に溢れやすい5.05km右岸を選定。
(堤防から最も溢れやすい箇所は被害が少ないため除外)



水位 (m)	現状	船橋	県提案値	リードタイム
2.54	氾濫危険	3.00	2.54 天端水位	90分
1.88	避難判断	2.00	1.70 氾濫危険	30分
1.70	氾濫注意	1.00	1.40 避難判断	30分
1.20	水防団待機	0.00	1.10 氾濫注意	
		-1.00	0.90 水防団待機	
-0.71	平均低水位		-0.71 平均低水位	

水位上昇速度: 0.50m/h (現状), 0.53m/h (県提案値)

水位 (m)	現状	常安橋	県提案値	リードタイム
4.23	天端水位	4.00	3.67 天端水位	120分
2.54	氾濫危険	3.00	2.30 氾濫危険	30分
2.35	避難判断	2.00	1.90 避難判断	
1.50	氾濫注意	1.00	1.50 氾濫注意	
1.00	水防団待機		1.00 水防団待機	
-0.63	平均低水位	0.00	-0.63 平均低水位	

水位上昇速度: 0.91m/h (現状), 0.65m/h (県提案値)

河川名	量水標	水位上昇速度 (m/h)	ネック地点	現行 設定水位				水位上昇速度 (m/h)	ネック地点	新基準:見直し後 設定水位				参考
				水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位			水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	
安曇川	船橋 19.28k	0.50	18.0k左岸	1.20 (8回)	1.70 (4回)	1.88 (4回)	2.54 (1回)	0.53	18.8k左岸	0.90 (10回)	1.10 (8回)	1.40 (6回)	1.70 (4回)	H25年台風18号最高水位 2.23
	常安橋 5.6k			0.91	4.6k右岸	1.00 (21回)	1.50 (11回)			2.35 (3回)	2.54 (2回)	0.65	5.05k右岸	

()カッコ内は過去15年間の到達回数

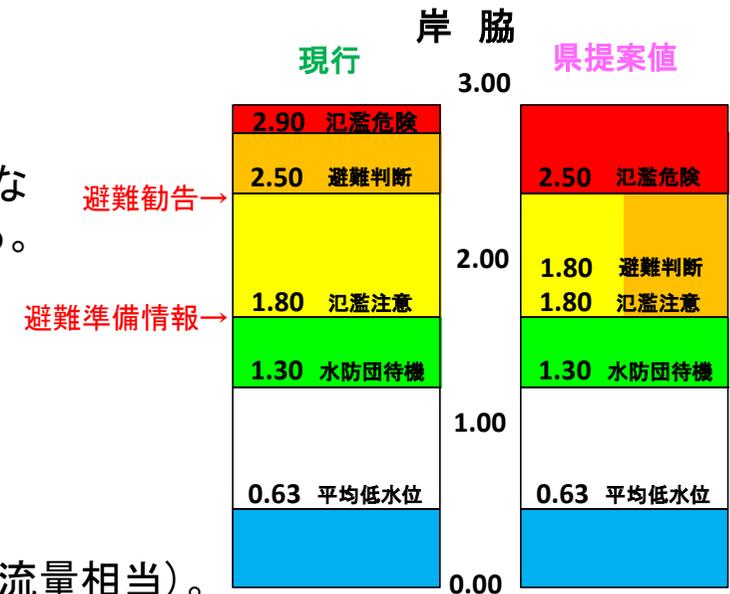
2. 避難勧告マニュアル改訂を踏まえた「越水」に関する水位設定の見直しについて

(3) 石田川

① 検討方針

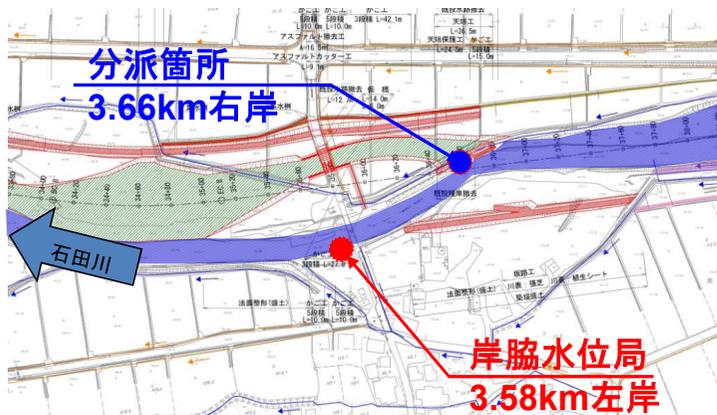
設定して2年程度であり、見直しが必要となるような大きな出水がなかったことから、避難勧告等の発令基準は変更しない方向で検討する。

- ◆ 現行の避難判断水位 → 見直し後の氾濫危険水位
- ◆ 現行の氾濫注意水位 → 見直し後の避難判断水位

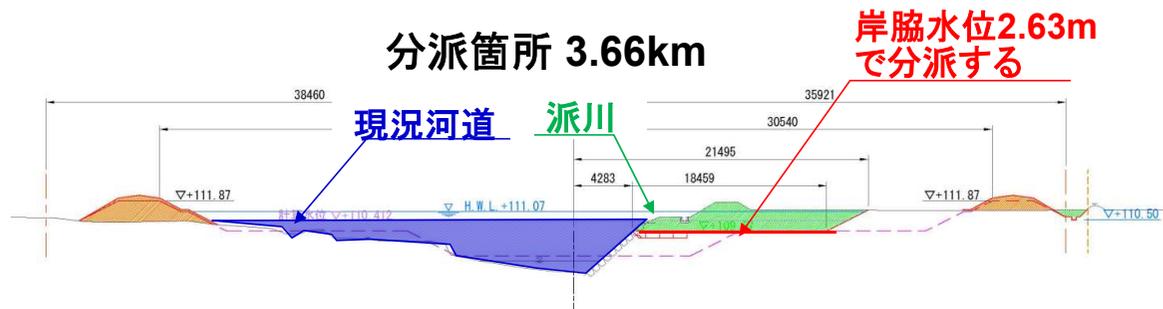


② 暫定掘削の影響について

- ・ 越水被害を軽減するため暫定掘削を実施中(平成25年台風18号流量相当)。
- ・ 岸脇水位局の水位が2.63mで派川に分派する。



見直し後 氾濫危険水位 = 2.50m < 2.63m → 暫定掘削で影響しない



③ 検討結果

現行の水位設定時期
石田川:H26.4

河川名	量水標	現行 設定水位				新基準:見直し後 設定水位				参考
		水防団 待機 水位	氾濫 注意 水位	避難 判断 水位	氾濫 危険 水位	水防団 待機 水位	氾濫 注意 水位	避難 判断 水位	氾濫 危険 水位	
石田川	岸脇 3.58k	1.30 (47回)	1.80 (10回)	2.50 (2回)	2.90 (1回)	変更しない	1.80 (10回)	2.50 (2回)	3.31	H25年 台風18号 最高水位

()カッコ内は過去13年間の到達回数

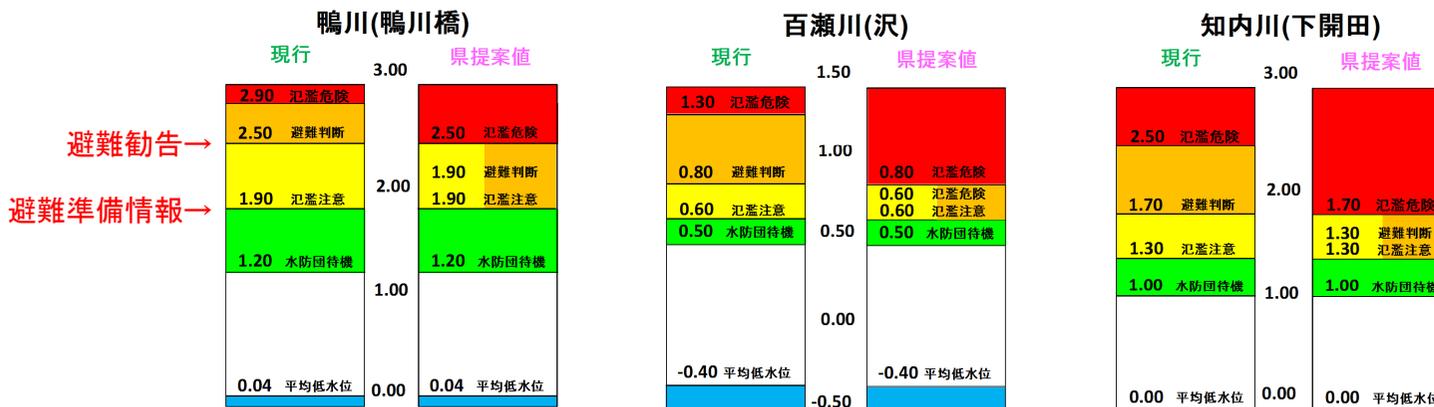
2. 避難勧告マニュアル改訂を踏まえた「越水」に関する水位設定の見直しについて

(4) 鴨川・百瀬川・知内川

① 検討方針

設定して1~2年程度であり、見直しが必要となるような大きな出水がなかったことから、避難勧告等の発令基準は変更しない方向で検討する。

- ◆ 現行の避難判断水位 → 見直し後の氾濫危険水位
- ◆ 現行の氾濫注意水位 → 見直し後の避難判断水位



② 検討結果

各河川における現行の水位設定時の内容を再確認した結果、避難情報発令目安としての水位は変更しない。

河川名	量水標	現行				新基準:見直し後				参考
		水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	水防団待機水位	氾濫注意水位	避難判断水位	氾濫危険水位	
鴨川	鴨川橋	1.20 (35回)	1.90 (12回)	2.50 (2回)	2.90 (2回)	変更しない		1.90 (12回)	2.50 (2回)	3.04
百瀬川	百瀬川	0.50 (31回)	0.60 (21回)	0.80 (7回)	1.30 (0回)	変更しない		0.60 (21回)	0.80 (7回)	1.25
知内川	知内川	1.00 (17回)	1.30 (7回)	1.70 (3回)	2.50 (0回)	変更しない		1.30 (7回)	1.70 (3回)	-

現行の水位設定時期
鴨川:H26.4
百瀬川:H27.8
知内川:H27.8

※鴨川は最高水位に達した後破堤

※知内川は台風18号時欠測

()カッコ内は過去の到達回数<鴨川:13年間、百瀬川・知内川:14年間>